Fri

鋼管・建材・線材・二三次製品

Steel pipe Buillding materials Wire rod Secondally and tertially products

Thu 鋼板・二三次製品需要産業
Wed 海外情報 AMMリポート
Tue 電炉・スクラップ 技術・環境・エンジ
Mon 特殊鋼・ステンレス 鋳鍛鋼

三鋼販

「即蔵鉄」普及を強化

東北、関西で取引先開拓

三井物産鋼材販売は、鋼材のネット販売システム「即蔵鉄」の普及に向けた取り組みを強化する。比較的顧客が広がりを見せている関東、北海道地域のほか、販売網や物流の構築を進めながら、東北や関西へも取引先を広げていく考えだ。

昨年度は即蔵鉄での通算取引量が10万㌧を突破。記念として10万㌧目の取引先に対してプレゼントを贈呈した。年間トップ賞などの賞を設けているほか、実績のある取引先に対してiPadを送る企画などをすることで、即蔵鉄の普及を図る。

即蔵鉄はここ1－2年間で、改良を進めてきた。条鋼品、鋼管のほか、線材製品もラインアップに加え、加工品にも対応できるようになった。今後は請求などの事務手続きを簡略化することで、さらなる利便性向上を図る計画だ。

12年度は即蔵鉄の販売量が前年比10％増えており、取引先も拡大している。遠隔地の小口注文での取引が多いことから、販売網の拡大とともに、サービス向上のため、今後、物流網の拡大と効率化を進める方針だ。

即蔵鉄は24時間発注が可能で、1－2日以内で即納できることなどを特長としたネット販売システム。利用者は注文、納品データの確認や、三鋼販各拠点の在庫状況も簡単に把握できるため、取引の簡易化を図ることができる。

神鋼・溶接

技術営業で拡販加速

今期 国内市場防衛へ対策

神戸で開催された神溶会・全国総会

神戸製鋼所・溶接事業部門は、販売組織「神溶会」全国総会で、今期の国内営業方針や市場展望を発表した。業種別営業や溶接サポーター制度の推進、神溶会の組織改革と結束を柱とし、体質強化やユーザーからのさらなる信頼獲得を目指す。国内総需要は造船の減速で前年度を下回ると予想する中、国内市場の防衛にも取り組む。鉄骨、自動車、造船、建機と主要分野ごとの業種別営業では、技術優位性を武器に拡販を加速させていく。技術営業力の基盤となる溶接サポーター制度は、今年3月末で1400人以上の溶接サポーターをはじめ、シニア・エキスパート・シニアエキスパートの各サポーターが生まれている。本年度はさらに業種別マイスターの拡充や講習会、コンクールの企画実行を検討する。

販売価格の面では前年度、酸化チタン原料価格が急騰する中で限定的な価格改定を実施した一方で、輸入材を意識した対応を取っており、本年度も国内市場の防衛を念頭に置いた対策を取る。

神溶会の組織改革に関しては、指定商社と指定代理店・認定販売店の形で定期的な昇格登録を行っており、2014年度に次回資格審査を予定。神溶会は「日本のものづくりのさらなる進化」を目指し、「共に考え、共に活動し、共にユーザーの溶接課題を解決し、価値を評価され、発展する」との理念で、会の結束を図っていく方針。

本年度の国内溶接材料の市場環境は、造船向けが前年度以上のペースでダウンすると予想され、自動車も海外現地生産加速の可能性があり、鉄骨・橋梁では回復が見込まれるものの、前年度を下回る水準を見込んでいる。推定国内総需要は前年度が27万3000㌧（11年度比6％減）に対し、本年度は前年度比3％減の26万5000㌧規模を想定している。

14日に神戸市中央区で開催された神溶会全国総会では、神鋼の粕谷強専務取締役・溶接事業部門長、中村寿宏・同部門営業部長があいさつと事業方針、営業活動などの報告を行った。

ファブ9社

7社が前期経常黒字

今期、4社が減益見込む

鉄骨・橋梁ファブリケーター9社（連結8社、単独1社）の2013年3月期決算が出そろい、7社が経常利益を確保する一方、2社が損失を計上しており、企業の状況によって収益に差が出ている。通期では、4社が減益を見込んでおり、ファブを取り巻く厳しい状況が続きそうだ。

経常利益を確保したのは、川田テクノロジーズ、横河ブリッジHD、日本橋梁、那須電機鉄工、宮地エンジニアリンググループ、瀧上工業、高田機工の7社。そのうち、川田、横河、宮地の3社が増益で、瀧上は黒字化した。一方で、赤字転落したのが、駒井ハルテック、巴コーポレーションの2社。

受注高は4社で増加しているが、受注競争が続いている中で、手持ち契約では不採算工事なども残っている。政府の経済対策などにより、受注増に向けて機運は高まっているものの、民間工事などの受注につながっていないようだ。

鉄骨需要量は、12年度は476万㌧と前年比で10％超増加し、今年度も回復傾向は続く見通し。東日本大震災の復旧・復興需要や民間設備投資も増加傾向にあるが、計画が遅れるケースも出ており、需要は緩やかな回復にとどまるとの見方が多い。

今後、鋼材価格や労務費などが上昇する一方、受注単価の引き上げは遅れており、収益が圧迫される懸念も現実味を増しており、厳しい事業環境が続きそうだ。

ファブリケーター決算まとめ
（上段：12年3月期、中段：11年3月期、下段：14年3月期予想、単位：100万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
横河ブリッジHD	88,785	3,608	1,966
	72,725	2,027	262
	90,000	3,300	2,000
川田テクノロジーズ	87,624	1,709	1,121
	79,769	111	127
	90,000	700	500
日本橋梁	39,638	927	442
	—	—	—
	40,000	900	500
駒井ハルテック	30,793	▼2,184	▼4,453
	36,158	497	523
	38,100	180	150
那須電機鉄工	21,281	231	73
	21,602	314	▼125
	20,800	200	100
宮地エンジニアリンググループ	19,429	592	474
	17,915	396	302
	23,000	600	500
巴コーポレーション	17,081	▼423	▼1,284
	20,698	773	564
	20,000	250	150
瀧上工業	9,662	6	▼141
	8,314	▼340	▼323
	9,500	80	50
高田機工（非連結）	12,020	27	38
	15,274	585	619
	14,000	140	100

（注）日本橋梁は11年3月期は個別のため記載なし

東鉄連

形鋼販売4月14％減

4.2万㌧ H・溝形2割ダウン

東京鉄鋼販売業連合会の形鋼部会（部会長＝出店文雄・出店鉄鋼専務）の4月度調査によると、形鋼9品種の販売量は4万1629㌧と前月比で14・2％減少した。H形鋼、山形鋼、溝形鋼で前月を割り込んでいる。前年同月よりは上回っているものの、流通では荷動きが回復しているという実感に乏しいとの声が根強い。

東鉄連の形鋼調査はH形鋼、一般形鋼（山形鋼、不等辺山形鋼、溝形鋼、I形鋼）、軽量H形鋼、コラム、軽量形鋼（C形鋼、デッキプレート）について、形鋼16社、軽量形鋼10社を対象に調査した統計。

H形鋼の販売量は1万8779㌧と前月比で19・5％減、山形鋼は9869㌧と7・6％減、溝形鋼は629㌧と20・0％の大幅減になった。コラムは2062㌧と9・9％増、軽量C形鋼は250㌧と1・1％増。

在庫量は入庫減少により、斬減傾向にあり、品種合計の月末在庫量は6万6689㌧と前月比2・8％減。H形鋼は1万6348㌧と3・7％減、山形鋼は1万6453㌧と2・9％減、溝形鋼は1万5961㌧と4・6％減、コラムは5425㌧と2・0％減、軽量C形鋼は3386㌧と8・4％増。

契約残も減少しており、品種計で1万8280㌧と12・8％減。H形鋼は7646㌧と14・2％減、山形鋼は4494㌧と19・0％増、溝形鋼は2943㌧と0・2％増、コラムは1972㌧と7・1％減、軽量C形鋼は546㌧と4・7％減。

浦安ファイル

— 未来につなげる団結と信頼 —

佐藤鉄鋼

基幹支店の機能担う

利便性高め要望に対応

<28>

佐藤社長

「鉄と名のつくものなら何でもすぐ間に合わせること」を創業以来のモットーとし、中でも浦安支店は、基幹支店として佐藤鉄鋼を支える。

従来の亀戸営業所と本社倉庫の機能を移転し、1981年に浦安鉄鋼団地に支店、倉庫を置いた。さまざまな品種を扱う鋼材流通が集まっている鉄鋼団地のメリットを生かすことで、取引の幅は広がった。

浦安倉庫では山形鋼、溝形鋼、厚板、熔協品、平鋼など幅広く取り扱っており、入出庫ともに月間2700－2800㌧。関東エリアを中心に福島、甲信越などの顧客からのニーズに対応する。

「幅広いお客さまに対して、配送などの仕組みを構築することで、利便性を高めて要望にお応えしていく」と鉄鋼流通としての基本を徹底する。

佐藤社長は、浦安鉄鋼団地協同組合の理事を務めており、東京鉄鋼販売業連合会の地域組織の京橋鉄友会の理事にも就任している。業界の次世代の担い手として注目され、若手経営者からの信望も篤い。老舗特約店の信頼と基本に忠実な商売を積み上げることで、着実な発展を目指す。（山本章央）

浦安支店

▽事業内容＝鋼材の販売並びに加工・倉庫業
▽取り扱いメーカー＝新日鉄住金、神戸製鋼所、東京製鉄、中山製鋼所、大阪製鉄、ＪＦＥ条鋼、東京鋼鉄、合同製鉄、東京鉄鋼、朝日工業、伊藤製鉄所、向山工場、関東スチール、三興製鋼、城南製鋼所、日鉄住金建材工業、中山三星建材など
▽仕入れ先＝日鉄商事、メタルワン建材、三井物産スチール、伊藤忠丸紅テクノスチール、中山通商、兼松トレーディングなど
▽販売先＝シオヤ産業、日弘商会、植木鋼材、田代鋼材、末永鋼材、橋爪商事、泉商店など

会社概要

本社	東京都中央区八丁堀1丁目3番2号 ☎03(3552)3111 FAX03(3552)3128
創業	1926年7月21日（設立1948年12月1日）
資本金	3億2500万円
従業員	65人
代表者	佐藤 元政社長
売上高	137億円（2012年11月期）

日刊産業新聞 13.5.17

プロロジス

茨城・古河に物流2施設

東北、関西への配送網視野

物流不動産の運営、開発大手、プロロジス（日本本社＝東京都千代田区、山田御酒社長）は15日、茨城県古河市で「プロロジスパーク古河1」「プロロジスパーク古河2」の2棟の物流施設の開発に着手すると発表した。圏央道の整備により、関東全域だけでなく東北、関西方面の消費地への配送網が広がることもあり、計画を進めている。

国道4号線で都心へのアクセスが可能な北春以降に完成予定の五霞ICの完成により、東北自動車道への乗り入れができるようになる。15年4月以降は圏央道の整備により、東名自動車道、中央自動車道、関越自動車道、常磐自動車道、東関東自動車道のアクセスも可能となり、利便性が向上する。

「プロロジスパーク古河1」完成予想図

2棟は約10万6000平方㍍の敷地を2区画に分けて開発を進める。プロロジスでは再生可能エネルギーを積極活用する観点から、各施設の屋根面には太陽光パネル設置を検討。すでに全国8棟の施設で計10㍋㍗の発電開始に続くものとなる見込み。

「プロロジスパーク古河1」は敷地約5万4000平方㍍に延べ床面積6万2000平方㍍の地上2階建ての物流施設で、13年に着工し、14年に竣工する予定。「プロロジスパーク古河2」は敷地5万2000平方㍍、延べ床面積5万5000平方㍍の地上2階建てで14年着工、15年竣工予定。

開催場所や時間などは以下の通り。
▽場所＝東京ビッグサイト・東5ホール、東6ホール（東京都江東区有明3－11－1 ☎03－5530－1111）
▽時間＝午前9時30分－午後5時

全国公共工事

4月請負額29％増

東北などで大幅伸長

「公共工事前払金保証統計」（北海道建設業信用保証・東日本建設業保証まとめ）によると、2013年4月の全国公共工事請負金額は、前年同月比28・6％増の1兆5991億1600万円、件数は同27％増の1万8854件だった。

4月の動向を地域別に見ると、請負金額ベースで前年同月比を上回った地域は、東北（3596億200万円、前年同月比61・6％増）、関東（3276億3000万円、同26・2％増）、北陸（1290億3500万円、同34・1％増）、中部（1858億9600万円、同12・1％増）、中国（1040億3300万円、同44・5％増）、四国（508億7700万円、同60・3％増）、九州（1716億6300万円、同53・6％増）。東北、四国の60％を超える、九州の50％を超える増加が目に付く。

一方、北海道（1073億3700万円、同9・9％減）、近畿（1553億6200万円、同0・7％減）は減少となった。

発注者別では、請負金額の多い順に市町村（5654億6400万円、同41・7％増）、都道府県（5181億3900万円、同27％増）、独立行政法人（2095億5000万円、同11・7％減）、国（1984億2700万円、同46・4％増）、その他公共的団体（1075億3300万円、同50・4％増）。その他公共的団体の50％を超える、市町村、国の40％を超える増加が目に付く。

鋼管引抜全国生産

2カ月ぶり減1.7万㌧

3月 東日本は前月上回る

引抜鋼管メーカーで構成する全国鋼管製造協同組合連合会（会長＝西山利明・西山製作所社長）のまとめによると、2013年3月の引抜鋼管生産量は前月比で0・8％減の1万7096㌧となり、2カ月ぶりに減少した。地域別では東日本が前月実績を上回り、西日本は下回る結果となった。

地域別に見ると、中部以東にあるメーカーを中心に構成する東部鋼管製造協同組合の生産実績が、前月比で5％増の7854㌧。一方、中部以西のメーカーを中心とする西部鋼管製造協同組合は、同5・3％減の9242㌧。

品種別では、普通鋼鋼管が前月比で0・9％減の1万6598㌧、特殊鋼鋼管が同1・6％増の498㌧だった。

詳細は別表の通り。

全国鋼管製造協同組合連合会の生産動向
（3月分、単位：トン）

	普通鋼鋼管						特殊鋼鋼管				合計
	配管用	特殊配管用	缶用	構造用	その他	小計	機械構造用炭素鋼	構造用合金鋼	ステンレス鋼	小計	
継目無管	96	713	112	1,978	379	3,278	187	203	85	475	3,753
溶接管	3	169	0	12,936	212	13,320	22	1	0	23	13,343
合計	99	882	112	14,914	591	16,598	209	204	85	498	17,096

購読の申し込み
0120－300391
http://www.japanmetal.com/toudoku.html

「みらい市」を31、1日開催

橋本総業、300社出展

管工機材や環境関連設備などを取り扱う橋本総業は、5月31日と6月1日の2日間、東京・有明の東京ビッグサイトで『緑をつなぐみらい市』を開催する。鋼管や継手、バルブ、住宅設備など各業界から合計で約300社のメーカーが製品を出展・販売する。

今回のテーマは、『環境・エネルギー』『健康・快適』『安全・安心』『中古・リフォーム』『地域活性化』『IT活用』の6つ。会場内は管材、システム配管、給水システム、電化、ガス・温水、キッチン・バス、住設建材、工具など事業分野別に構成されている。